

# 繊維青年

sabae young person of  
fiber departmental meeting

協同組合鯖江市繊維協会  
青年部 会報  
2011.3

Vol.02



## 視察研修報告 成功の発想

### ▽関西への視察旅行

平成22年度、繊維協会青年部の視察研修は、関西となりました。近い場所でありながら意外に知らないことも多く、有意義な旅行となりました。

参加者は、丸金繊維株式会社より山本社長、中村繊維株式会社より中村社長、テクノワープ株式会社より坂川さん、渡辺リボン株式会社より渡辺社長、福島織物株式会社より福嶋博志の計5名です。

旅行を通じて会社にフィードバックできることを学ぶことはもとより、お互いの親交を深め、これからの繊維業界の展望、要望などを話し合うことができました。

これをもとに自分の会社で今できること、これ

から目指して行かなければならないことなど、フィードバックし、鯖江の繊維、福井の繊維業界に貢献していかななくてはなりません。

11月11日に訪れたのは、松下資料館です。ここは、松下電器の生みの親、松下幸之助の経営を肌で感じるができる場所です。ここで私たちは、会社を経営するとは何なのかを感じ、学びました。

2日目に訪れたのは、タオルの生産をしているツバメタオルさんです。ここでは、中国にシェアを奪われていく現状の中で、いかに日本の繊維が生き残っていくかのヒントを教わりました。

今回は貴重な経験、さまざまなお話を詳しくお知らせしたいと思います。

# 松下資料館

京都府木津川市相楽台3丁目-1  
0774-72-7776  
<http://matsushita-library.jp>

11月11日

13:00～ 館長から、松下幸之助翁の『成功の発想に学ぶ』講義

16:00～ 館内展示物見学・研修



館長さんの講義に耳を傾ける



2F 松下幸之助との出会いと対話 館内は清潔、接客の原点を見た思い

## ▽松下資料館

1日目に訪れたのは「松下資料館」です。言わずと知れた、世界のパナソニックグループの創業者、松下幸之助の経営の理念に触れることができる資料館です。人となり、歴史を見ることが出来る「松下幸之助歴史館」とは違って、こちらは経営哲学などに触れることができます。それだけでも、経営者にとっては価値のある資料館だと言えるのではないのでしょうか。

ここで館長、川越森雄氏の講義を受けた後、松下幸之助の足跡が分かる資料を見学、その足跡をかいまみることができました。

## ▽会員の感想

●館内がきれいだと感動した。

施設のすべてが職場であり、お客様に気持ち良く過ごしていただきたいという職員の意識の高さを感じ、接客態度も感じがよく安らぎを感じた。

自分もお客様や社員との接し方を考えさせられた。

館長さんに「下請がこれから生き残れるか」という質問をしたところ、パートナーという意識を持っていけば生き残れるといわれ、自社に対するプライド、自信、勇気をいただいた。

●不遇の時代に「逆に何もなかったから成功でき

た」という松下幸之助の言葉に強さを感じた。

「不況もまたよし！不景気は商売の師匠！」の言葉にあるように、不況時にこそ改善、発展のチャンスという前向きな発想に感心しました。

●松下幸之助の経営の枠を超えた、人生観、家族観、地域、国家、世界、宇宙への飽くなき探求心を教えてくれる。特筆すべきは映像コーナーで、今まで語った映像が編集されたものを見ることができ、ボタンを押すと明快に氏が語りかけ、解決のヒントを教えてくれる。

●「物を作る前に、人を作る」松下幸之助が経営において一番重視したものの信念である。良いサービスを提供するには、まず立派な人間を作らなくてはならないと訴えている。

人の叱り方育て方は、大いに参考になった。

○「三方よしについて」

近江商人の商売の理念。売り手が利益を得て、買い手は満足し、利益は広く世のために還元されなければならないという意味。

○松下政経塾は、「真の繁栄を実現するには、経済活動だけでは限界がある。国家の政治が良くならない」という強い思いがあったから生まれた。

○本気になって志を立てよう。

志があれば、事は半ば達せられたと言っている

# ツバメタオル

大阪府泉佐野市日根野7181

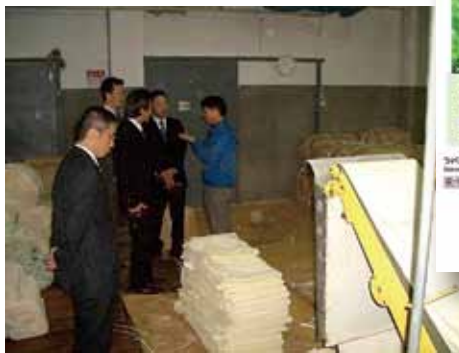
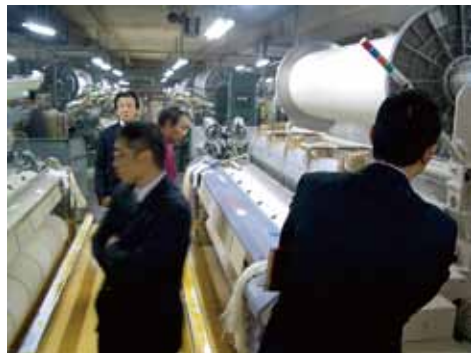
0724-67-0561

<http://www3.ocn.ne.jp/~tubame/index.html>

11月12日

10:00~ 工場見学

11:00~ 社長・大阪タオル工業組合理事長 竹本利弘氏講義



テリーモーションの津田駒エアジェット28台を駆使し、主に白タオルを生産している。



い。生きがい生まれ、仕事の意義、誇りが生まれてくる。

○人間としてどう生きるか、人間経営学について。

何のために経営するのか、人生・生き方の原点を考えよ。成功するまで続ける。人間としての成功を追い求めよ。

○己の損得を超える人間、精神を養おう。

みんなのためにという美しい心を持とう。自ら動かなければ何も始まらない。

共に苦勞することで壁がなくなり、感動を生む。どんな小さい仕事でもありがたいと思い、全力を尽くす。仕事の選り好みはわがままである。

## ▽ツバメタオル

2日目に訪れたのは、ツバメタオル株式会社でした。タオル業界もまた80%の生産が中国でされているが、ツバメタオルを始めとした泉州タオルなど250社が残りのシェアを守り続けています。手ぬぐいの生産技術から120年前に生まれた日本タオルの発祥の産地です。

ツバメタオルの特徴は、有機製錬タオル、人にやさしいエコロジータオルです。もともとは、社長の長男がアトピーだったことで、タオルが人の肌に触れる、人体への大きな影響があると気がついたといひます。

赤ん坊が口に入れても安全なタオルを作るとい

う決意のもと、有機製錬タオルは生まれました。色はドリンク染めと、フード染めを開発。製造に化学薬品を使わないタオルです。すぐに水を吸い使うことができ、綿本来の肌触りを感じることのできるタオルです。

国内使用の綿8,000コウリ（×180kg）のうち900コウリをツバメタオルが使っています。

## ▽会員の感想

●泉州のタオルは、吸水性が良くすぐに沈む。他のタオルは沈まない。差別化が必要だと感じました。

コンビニではなぜ高い商品が売れるのか。お客様は時間を買ってくるのだ。社長さんのお話になるほど。仕事もいかにスピードが大切かということを教わりました。

●後晒し加工が特徴で、洗いを最後にするため商品としてすぐに使用可能。

これ以上シェアは落ちない。その理由として中国には織布工はいても技術者がいない。そのため設定変更がおおい小ロット、短納期には講じられないから。

●ツバメタオルは徹底したリードタイムの短縮でシェアを確保している。多工程にも関わらず、その量産ぶりに驚かされた。

2010年6月14日に開催された青年部による講演には今回、(株)ジャロックの代表取締役武澤氏においでいただいた。

氏は会社をメガネ業界から自動車業界に進出させ、みごとな成功を収められている。その成功の秘訣をうかがうことができた。出席者は6名。部会終了後の懇親会でも、活発な意見や質問などが交わされた。

この講演で学んだものを、それぞれが会社で活かすことができれば幸いだと思う。

以下に、講演でのメモをもとにポイントを紹介する。

### ●理念と経営

理念とは、理想と信念。経営とは実践のための方法である。

会社を運営するには「理念」と「経営」の両方が必要である。理念をどう実現するかが経営である。

### ●三位一体経営のすすめ

社員、幹部、社長が三位一体となり役割分担し、社員満足、顧客満足を得ることで業績をアップさせる。

社長は、ビジョンや長期計画、社風を作っ

## 青年部講演会

2010年6月14日

講師 ■ 株式会社ジャロック 代表取締役 武澤清則 氏

# 経営の理念と実践

いく。考え続ける習慣が必要。果たすべき使命を明確に持つ。

管理者は、人を幸せにするマネジメント。会社の成長のためには一人一人の考える力を養う。働く使命をみんなに理解してもらう。

現場は自主自立して、会社の改善活動をしていく。顧客につながるのは現場。しかし、現場に力を入れていると長期計画ができない。

倒産する会社のほとんどは社員、顧客に対する人間尊重がなくマネジメントができていない。

組織に必要な事は、共通目的であり、コミュニケーションが大切である。ホーレンソウ（報告・連絡・相談）ができていないと利益率が下

がる。さらに協力しようという協働の自発性が大切。顧客満足が最終目的であることを忘れてはならない。

### ●社長が作る社風

健全な社風は社長が作る。公私混同すると、社員も同じことをする。

協調性、共通目標、コミュニケーション、人間の尊重をもち、業績達成、顧客満足、社員の満足を考え経営計画を立てねばならない。

社長は経営革新のリーダーであり、研修に参加したり新聞を読み情報を仕入れる必要がある。社長も社員のそれぞれの役割をしなければならない。

### 編集後記

ますます厳しさを増しつつある繊維業界ですが、青年部の皆様がセミナーや研修旅行で新しい可能性をも模索されている姿に頼もしさを感じます。

昨年7月には繊維協会3階に石田縞手織りセンターがリニューアルいたしました。鯖江の繊維の新しいイメージリーダーに育っていけばと思います。ご意見・ご感想をお寄せ下さい。

協同組合鯖江市繊維協会 青年部会報 第2号  
発行 2011年3月15日

編集・発行

協同組合鯖江市繊維協会 青年部会

〒916-0004

福井県鯖江市糺町32-1-1

TEL.0778-52-1880 FAX.0778-52-9880

E.MAIL : ss-kyo@angel.ocn.ne.jp